

クリニックいずみ

「クリニックいずみ」は、2002年（平成14年）に当法人が設立したクリニックです。「いずみの園」の敷地内で、道路に面した場所に開院されています。

隣接する特養、グループホームの入所者、ケアハウスの入居者の方々、また、一般外来の診療も行っています。

院長は、鬼塚徹医師で診療科目は、『内科』、『呼吸器科』を主体としています。ご近所の方や、呼吸器疾患、高血圧や糖尿病等の生活習慣病で通院されている方もいらっしゃいます。現在は、インフルエンザの予防接種の真っ只中です。

入所者・ご利用者の診療や、職員の健診や診療も行い、スタッフ一同で、地域社会で安心・安全の暮らしを支援していきます。



スタッフです



デイサービスセンターふれんど館

デイサービスセンターふれんど館」は、1998年（平成10年）1月4日に大分県第一号のデイサービスとして事業を開始しています。

1日のご利用定員は35名、対象者は介護保険の認定を受けている方です。必要に応じて利用の時間延長も可能です。

デイサービスの主なサービス内容としては個々に合ったお食事やお風呂の提供、その他日常生活上必要な支援やご利用時間を楽しく過ごす為のレクリエーション、作業療法士等の機能訓練員によるリハビリ、看護師による健康チェックなどを行っています。また行事ではご利用者に四季を感じて頂ける内容提供に努めています。

これからも沢山の方々との出会い、触れ合いを大切にしながら、ご利用者や地域の方々に愛して頂ける事業所となるように日々努力していきます。



スタッフです



「住み慣れた地域で暮らし続けるために」



介護保険サービスセンター
課長 枅 真司

「ケアマネの仕事は何ですか」と初めて相談に来られた利用者や家族の方々の多くが尋ねられます。この時決まっていたように説明します。「認知症になっても、ひとりでも暮らしていても、入院することになっても、退院する時も、安心して住み慣れた地域で暮らすことが可能となるよう支援をすることです。そのためにも行政や医療機関、サービス事業所との橋渡し役となり、利用者や家族の暮らしを支えることが仕事です。」

最近では入院期間が短縮され、退院後も治療や医療的処置が必要な利用者が多くなり、医療機関との連携が欠かせません。少子・高齢化に伴い介護力の低下も著しく、短・長期の入所の相談も増えています。認知症の利用者を抱えた家族が、その対応に苦慮されて共倒れ寸前までお世話をされ、急速介護サービスの利用を開始したこともありま。また、人生の最後の瞬間に関わる事も多く、その人らしい最期をお手伝いすることができ、家族から「良かった。ありがとう」と言ってもらうのが、何にも勝る喜びを感じる瞬間です。

住み慣れた地域で最後まで暮らすことができるように365日24時間対応型の訪問介護事業が、この中津の地で事業展開しています。
在宅介護の「切り札」として1人でも多くの方々に利用していただけたら、今後も周知していきたいと思ひます。



介護職の 医療的ケアについて



特養事業部看護課
課長 中島三佐江

超高齢化社会となり、医療の処置が必要な介護者が全国的に増加している現状の中、当園においてもその傾向にあり、近年、医療的ケアを必要とするご利用者が増加しています。この状況に対応するため、2010年(平成22年)4月に特養の介護職員に対して一部の医療行為を許容するという通知が厚労省医政局よりありました。これは、医療安全が確保されるような一定の条件の下で看護職員と介護職員が連携協働により実施されることが前提となっています。介護職員に許容された医療行為というのは、口腔内の痰の吸引と胃瘻による経管栄養です。これを実施するために、指導看護師研修を受けた私が施設内で介護職員に対し研修を行っています。研修内容は、14時間の講義と実習になります。今は、5グループまでの介護職員の講義が終了しましたので段階的に実習を進めている状況です。研修修了者は約半数いまして、今後も随時実習を進めていき多くの修了者を確保していきたいと思っております。そして、ご利用者に安全で適切なケアが実践できるような体制を構築していきたいと思っております。

超高齢化社会となり、医療の処置が必要な介護者が全国的に増加している現状の中、当園においてもその傾向にあり、近年、医療的ケアを必要とするご利用者が増加しています。この状況に対応するため、2010年(平成22年)4月に特養の介護職員に対して一部の医療行為を許容するという通知が厚労省医政局よりありました。これは、医療安全が確保されるような一定の条件の下で看護職員と介護職員が連携協働により実施されることが前提となっています。介護職員に許容された医療行為というのは、口腔内の痰の吸引と胃瘻による経管栄養です。これを実施するために、指導看護師研修を受けた私が施設内で介護職員に対し研修を行っています。研修内容は、14時間の講義と実習になります。今は、5グループまでの介護職員の講義が終了しましたので段階的に実習を進めている状況です。研修修了者は約半数いまして、今後も随時実習を進めていき多くの修了者を確保していきたいと思っております。そして、ご利用者に安全で適切なケアが実践できるような体制を構築していきたいと思っております。

24時間対応定期巡回・随時対応訪問介護サービス モデル事業

訪問介護課 課長 山本さつき

本年4月よりモデル事業を開始し、9ヶ月が経過しました。新規サービススタートまでわずか3ヶ月となり検証作業として、より一層気が引き締まる思いがしています。

- ①現在対象者は30名
- ②1ヶ月の定期訪問件数の平均は540回
緊急時コールでの随時訪問は9ヶ月で36回
- ③平均介護度は2・4度
- ④コールから居宅到着時間は平均12分と早い訪問が来ています。

転倒や排泄で緊急コールで訪問しますが、生活や排泄のリズムをアセスメント(課題評価)しながら、定期訪問へとケアプラン変更をケアマネジャーに提案し、対象者の個別の生活リズムの安定を支えることで、「住み慣れた地域や我が家で暮らしたい」という想いを叶え、継続できるように援助しています。

医療依存度の高い緊急コールでは、オペレータが医療コールとして判断し、あらかじめ契約している訪問看護ステーションに連絡し、連携を図っています。

今この事業は県内外の行政機関や事業所の皆さんに関心が高く、夜間対応型訪問介護と共に問い合わせや見学に多くの方が来園されているところです。

私達は後半に向けモデル事業としての責任を果たし、来期スタートする新規サービスが、市民の皆様により良いサービスでありますように努力して参ります

ので、多くのの方々、サービスの内容をご理解して頂きたいと思っております。

思います。



宮崎主任
山本課長
熊井部長
里見主任
中西主任

事業所内保育施設 『マリアガーデン』の 開設にむけて

介護・福祉施設では、サービスの質は、そこで働く従業員の力量に依存すると言われています。優秀な人材に長く安心して働いてもらうために、今年からワークライフバランス(WLB)について重点的に取り組んでいます。



この活動の一つとして、事業所内保育施設「マリアガーデン」を2012年の4月に開設することを目標に進めています。建物は、木のぬくもりを感じることができ、敷地の中にあるので、従業員は休憩時間に顔を見に行くことができます。勤務シフトに対応するため、朝7時から夜7時までの保育が可能で、食事も昼と夜の2回提供することができます。(今後最終的に詰める予定) 従業員の福利厚生を厚くし、誇りを持って働ける職場環境を整備することが職員の幸せにつながり、ひいては利用する高齢者の皆さまの幸せにつながると信じています。

(総務部総務課)

いずみの園夜間招集訓練について

いずみの園 防災委員会 委員長 市川 朋克

8月19日(金)午後7時30分より夜間の災害を想定した招集訓練を実施しました。

今年度の想定内容は夜間に特養から出火としました。職員は夜間帯の限られた人員での初期の避難誘導、消防本部や職員への緊急連絡、初期消火などを的確に行うための訓練と共に、自宅にいた場合の非常呼び出しへの対応訓練を行いました。

自宅にいた職員は夜間勤務者からの連絡を受けて、「非常通報連絡網」に沿い、施設へ招集され、夜間勤務者との連携により避難誘導などを行いました。

今回の夜間招集訓練参加者はご利用者57名、職員161名でした。訓練開始30分後には約100名の職員が到着していました。

訓練終了後、招集された職員が一カ所に集まり、今回の訓練の結果報告を行いました。

最後に富永施設長より、「いずみの園の使命は入所されている方の安全と生命を守る事。災害時等に直ぐに職員が駆けつけられるよう日頃の訓練が、大事の時に必ず生きてくる。今後いろいろな事態を想定して訓練を積み重ねていきたい。」との講評がありました。



チャブレン

通信



カウンセラー室
堤 健生

「私は神からいただいた恵みによって、熟練した建築家の様に土台を据えました。そして他の人がその上に家を建てています。」
新約聖書 コリント書3・10

以前建物の補修することになり土台のところを掘り起こしました。すると戦前に建てられた基礎のコンクリートが現れました。地中に埋まっている土台部分は普段全く目には触れませんが、それがあればこそしっかりと建物は立ち続けていくという事に改めて感動いたしました。
聖書は私達には既に与えられた土台があるということを知っています。この土台は人の手によらず、又その人自身の努力によって身に付けたものではなく、全くただで与えられている土台なのです。この土台のことを恵みと言います。今というとき、私たちはこの土台を見つめ、しっかりと立っていきたいものです。



二法人保育園(所)長等連絡会

9月22日(木)午後、社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団が経営する大分市・めぐみ保育園、中津市・グレース保育園、福岡県みやこ町・犀川のぞみ保育園と社会福祉法人栄光園が経営する別府市・青山保育所、同市・野口保育所の5保育園(所)長等連絡会がありました。これは両法人の理事長が同じであるため、保育所をめぐるいろいろな課題について意見交換を行い、情報を共有していこうという連絡会で、5保育園(所)が一同に会するのは実質初めてでした。



政府における子ども・子育て新システムの状況やそれぞれの市町での保育行政のこと、今後の新社会福祉法人会計基準の主な改訂点について情報交換を行いました。

この連絡会は、年2~3回行うこととしていますが、保育園の社会的役割を果たすためにも、施設長の責務と職員の研修等相互に情報を交換し、運営上補完し、良質の保育が確保できる様にしていきたいと考えています。(法人本部事務局)

シリーズ第3回

『ワークライフバランス』を知っていますか？

■ワークライフバランス(以下、WLBという)は、少子高齢化、人口減少など社会環境の変化で日本において国が力を入れています。WLBは世界的な流れでもあります。諸外国ではどうでしょうか。

■アメリカ企業先導型で、経営戦略として発展。家庭は個人の領域で国や企業が介入すべきではないという考えが根強いアメリカでは、WLBは民間(企業)主導で取り組まれています。ファミリーフレンドリー施策を充実させたことです。経営戦略としてWLBに魅力を感じて取り組む企業が増え、WLBが浸透しています。

■イギリス企業主導から政府主導で柔軟な就労形態支援へ。チャレンジ基金プログラムの創設でWLB導入のためにコンサルティング機関を利用する雇用主に国が資金援助を行うというものです。

■フランス女性の高立支援を目的に家族政策として推進中。フランスでのWLB施策は、子どもがいる母親と育児の両立を中心に展開され、それは現在でもあまり変わらず、企業戦略としてという視点から議論されることは少ない。

ドイツー国力を高めるといふ視点から、家族にやさしい環境づくりを推進。日本、イタリアと並ぶ「超少子化国」であり、出生率は世界でもかなり低い水準で深刻な労働力不足の課題を引き起こしています。女性・男性ともに仕事と生活の両立が可能なようにWLBに積極的に取り組んでいます。

■WLBを実践する3つの方法

- ①考え方を変える
 - ・柔軟性と柔軟性を持って状況に対応。
 - ・自分の人生であるので、自分の行動に責任をもつ。
 - ・完璧主義はWLBの大きな障壁となる。
- ②話し方を変える
 - ・常に肯定的な言葉を使う。
 - ・自分のWLBについて多くの人から理解してもらおう。
- ③行動を変える
 - ・目標は小さなことから、すぐやること。
 - ・続けること、まずは3週間続けること。

次回は、シリーズ最終回として「すみぬの園」としての提案を掲載します。

*出典：ミネルヴァ書房発行「ワークライフバランス入門」

レストラン『ベエルシバ』



7月よりレストランが再開されました。場所が少しわかりづらいようですが、クリニックとリハビリセンターの建物に併設された素敵な隠れ家的空間となっています。すでにご利用者様を始め近隣の方々にご利用いただいておりますが、ご利用者様の家族や知人の方々が面会に来られた際、ゆっくりとくつろいで歓談していただきたいと思います。簡単な軽食やデザートを楽しむ事ができます。是非一度足をお運びください。料金もコーヒー一杯百円とかなりお手頃な価格となっておりますので安心してご利用いただけます。

「ベエルシバ」とは聖書にある地名(ヘブライ語)です。アブラハムという人がアビメレク王と友好を誓った場所であり「契約の井戸」という意味があります。

井戸・ベエル、誓つ・シヤバ
(総務部総務課)

編/集/後/記

メジロの眼

正月に他家へ嫁いだ人が、実家へ里帰りすることを一部の地方では「鍋借り(なべかり)」と言っている。お盆の敷入り(藪焼き)焼畑をするときに手伝うことから派生した。の正月版だ。これは親元で鍋を借りて食事を調べ、親に勧め、日頃疎遠になった親子がお互いの幸せを喜び合うことだという。

日本には、まだ親子の情に触れるこうした習慣がどれほど残っているのだろうか。

メジロは一夫一婦制であるが、巣立ちまで両親が一生懸命世話をし、7年くらいの寿命を懸命に生き、命を次の世代につなげている。

創立記念感謝祭 第13回 いずみの園フェスタに ご来場ありがとうございました。

10月22日(土) 10:00より、今年で13回をかぞえる「創立記念感謝祭 いずみの園フェスタ」が行われました。
 雨天予想で内容や場所は少し変わりましたが、会場では、バザーコーナー、屋台コーナー、餅つきコーナーなどでにぎわい、またステージコーナーでは糸口太鼓、ラ・ティエラ、琉球國祭り太鼓、おやしバンド、マジシャン大江戸ジユリ、オカリナ同好会トトロの催しなどで盛り上がりました。
 来場者数は2,100人を超え、約150人のボランティアの方々のご協力をいただき、利用者の方や職員を含めると3,000人にも及び、予定した14時すぎに、大盛況のうちに終了することができました。
 天候にも恵まれ、事故もなく、また、市民・地域の皆さんにいずみの園を知っていただくことが出来たことを感謝いたします。
 今後も、中津市の地域において信頼される「いずみの園」になるようそれぞれの分野で努めてまいります。



※写真は昨年のクリスマス祝会のものです



いずみの園では毎年「クリスマス祝会」を開催しています。11月になると職員は、クリスマス祝会に向けて、準備のため動き始めます。当日は、チャップリンによる礼拝に始まり、讃美歌が流れ、ご利用者の皆様には、いずみの園からのプレゼントが配られます。さらに、職員からのプレゼントはハンドベルクラブ「リザウンド」のハンドベルの演奏です。静かな中に、ハンドベルの音色が心に響きます。引き続き行われる愛餐会では、豪華な食事に目を見張りと、舌鼓をうたれ、皆さん満面の笑みとなります。あたりはだんだんと暗くなり、突然室内の灯りが消されると、外には眩いばかりのイルミネーションが点灯、同時に冬の火花が始まります。「ファー」というご利用者の驚きの声、そして拍手…。「来年も元気でクリスマス祝会に参加しましょうね」という言葉があちらこちらで聞かれます。

今年(12月22日(木))に予定されています。今年の出し物は何でしょうか? 皆さん楽しみにして下さるね。

クリスマス祝会

介護課 戸川 正洋

いずみの園が高齢者のための新しい住まいを提案します。

住宅型 有料老人ホーム
シニアレジデンス **いずみの森**



最高のロケーションに誕生した
自宅感覚で暮らす一戸建てホーム

- 24時間365日安心のライフサポーター常駐
- バリアフリー構造・テレビ電話完備
- 光通信による見守りシステム
- オール電化・IHシステムキッチン
- 在宅介護サービスのご利用が可能
- 駐車場(カーポート)完備



全8棟

(2006年2月竣工)